

事務事業名	臨海自然教室推進事業				担当	教育委員会 自然教育センター	
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			増補版施策名		
施策名	2	小・中学校の教育の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 H4 年度～） <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
法令根拠	栃木県立とちぎ海浜自然の家条例、同管理規則						
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	9. 自然教育センター費			
事業概要	普段、海に接することの少ない栃木県の子どもたちに、海辺で宿泊しながら海や自然や海にかかわる産業・文化などに触れさせることを主要目的としている。市内小学校の5年生を対象として、県が指定した時期に、栃木県立「とちぎ海浜自然の家」を利用し宿泊学習を実施している。自然教育センターでは、バスの手配や利用経費の一部の支払い事務を行っている。なお、県の「とちぎ未来開拓プログラム」において、平成21年度をもって、とちぎ海浜自然の家送迎バス借上料の補助が廃止された。子どもたちにとって、海での宿泊体験学習は大変貴重なものであり有効な事業であるため、今後本事業を継続実施していきたい。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 31年度実績 「とちぎ海浜自然の家」にて2泊3日の宿泊学習を実施。そのためのバスの手配及び利用経費の一部支払い事務。 2年度計画 新型コロナウイルス感染予防対策のため、事業実施なし。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア 児童入所回数	週	3	4	3	3	0
	イ バス手配件数	件	18	18	14	13	0
	ウ 利用経費支払い件数	件	13	18	14	13	0
エ							
オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市内小学校5年生。	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア 市内小学校5年生の児童数	人	777	739	761	785	782
	イ						
	ウ						
エ							
オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 海辺の自然の中で様々な体験活動をさせ、心身を鍛える。集団宿泊生活をさせ、社会性と自立心を養う。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア 友だちや先生等とふれあいを深めることができた児童の割合	%	87.9	79.2	85.2	87.8	0
	イ 活動について調べたり、準備したりした児童の割合	%	75.5	77.8	79.5	75.3	0
	ウ						
エ							
オ							
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア 臨海自然教室の活動に満足した児童の割合	%	95.3	93.5	96.7	95.0	0
	イ						
	ウ						
エ							
オ							

(2) 総事業費の推移		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
		一般財源	千円	3,580	3,717	3,503	3,981	
	事業費計(A)	千円	3,580	3,717	3,503	3,981		
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	
		延べ業務時間	時間	97	97	97	97	
		人件費計(B)	千円	403	403	404	392	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	3,983	4,120	3,907	4,373	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	県は、平成4年に「とちぎ海浜自然の家」を設置し、小学校5年生での2泊3日の宿泊学習を推進している。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	県の「とちぎ未来開拓プログラム」において、平成21年度をもって、これまでの県補助（とちぎ海浜自然の家送迎バス借上料の1/4補助）が廃止された。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	ほとんどの児童が、臨海自然教室を楽しみにしている。